



長崎大学附属図書館報

THE BULLETIN OF THE NAGASAKI UNIVERSITY LIBRARY

和華蘭(わからん)とは、日本(和)・中国(華)・オランダ(蘭)の混合した文化様式をいう長崎の固有の表現です。



「長崎養生所」(医学分館所蔵)

—contents—

| | |
|------------------------------|-----|
| ◆ 学生用図書の新しい収書方法について | 1~3 |
| ◆ 貴重資料展示会「医学は長崎から」開催 | 4 |
| ◆ 近代医学史デジタルアーカイブズ「医学は長崎から」公開 | 5 |
| ◆ 公開講座「長崎唐人屋敷の変遷」開催 | 6 |
| ◆ 企業支援図書コーナーの新設について | 7 |
| ◆ 2005年の電子ジャーナルについて | 8 |
| ◆ 本学関係教員著作寄贈図書 | 9 |
| ◆ 情報スクランブル | 10 |



学生用図書の新しい収書方法について

附属図書館経済学部分館長
(附属図書館委員会収書専門委員会委員長)

柴多 一雄

今年度から学生用図書の収書方法が大きく変わりました。学生が必要とする図書をより効果的に収集することを目的に収書方法の変更を行ったものです。この新しい収書方法について、従来の学生用図書の収書のあり方や問題点を踏まえながらお知らせし、あわせて御協力と御支援をお願いしたいと思います。

1. 従来の収書方法とその問題点

これまで学生用図書の購入は、ほぼ次のような方法で行われてきました。まず学生用図書の購入予算は、文部科学省の学生用図書購入費と各学部からの拠出分とからなっていました。各部局からの拠出は文部科学省の学生用図書購入費が十分でないのを補うためのもので、額もこちらの方が多くなっていました。この購入予算から、参考図書等購入費と共通資料等購入費を引いた分を、学生数に応じて各部局と全学教育分に配分し、各部局では部局によって違いはありますが、学科や講座、あるいは個々の教官に再配分して学生用図書を推薦してもらっていました。

しかし、この方法にはいろいろな問題点がありました。たとえば、教官からの推薦がなければ、図書委員が代わって推薦するといったことが行われていましたが、このようなやり方ではたして適切な収書ができるのかという疑問の声がありました。その一方では、配分後の予算が少ないため金額がはるものが購入できない、講座物など年度をまたがって刊行されるものが購入しにくいなどの問題点が指摘されていました。

また学生からは、必要とする本がない、本が古いなどという不満が図書館に寄せられていました。しかし、図書館には独自に学生用図書を購入する財源はほとんどなく、収書専門委員会も十分に機能していない状況で、本当に学生が必要としている図書が収集できているのか心許ない状態でした。

このような状況が続いていたのは、運営費も含めて図書館に独自の財源がほとんどなく、各部局からの拠出によって図書館の運営が行われていたため、学生用図書の購入についても予算上の細かな取り決めがあり、なかなかそれを変えることができなかったからでした。

こうしたこともあって、運営費等の共通経費化が長い間、図書館の懸案となってきましたが、今年度からの独法化にともない、運営費等の共通経費化が実現することになり、学生用図書についてもより効果的な収書を行うための方法について、収書専門委員会で検討をすすめてきました。

2. 新しい収書方法の基本的な考え方

収書専門委員会では、これまでの収書方法の問題点を検証するとともに、それにかわる新しい収書方法やそのための細かな技術的な問題について検討してきましたが、これまでの方法と大きく変わったのは、つぎの3点です。

①学生自身が希望する資料を重点的に収集する

学生の希望を重視し、学生が読みたい本を揃えるということです。学生が希望する図書の購入は、これまでも実施していましたが、予算がわずかしかなく、あまり大きく宣伝していなかったこともあって、利用はそれほどありませんでした。しかし、学生が読みたい本を揃えるには学生の希望を取り入れるのが一番いい方法であり、その希望をかなえるため、学生希望図書購入の予算を大きく増やしました。学生が購入を希望する図書は、絶版等によって入手が不可能なものや1冊の定価が1000円未満ものなどを除いて、申し込みがあればすぐに購入するようにしました。

②シラバスに掲載された資料を優先的に収集する

シラバスに掲載されたテキストや参考図書は、演習などで使用するものを除いて、すべて図書館に備えることにしました。これまではシラバスに掲載されていても教官から推薦がなければ図書館に備えられていませんでしたが、今年度からはシラバスに掲載されたものについては自動的に備えられることとなります。現在は図書館が各部局のシラバスを集めて手作業で収集のための作業をしていますが、将来的にはシラバスの電子化によって、より効率的に収集を行うことができるようになると思われます。

③部局の枠にとらわれず、学生にとって必要な資料を効率的に収集する

教官からの学生用図書の推薦については、部局への配分をやめ、学生の学習および教養の涵養に必要な図書を、部局の枠にとらわれず推薦していただくことにしました。また教官一人あたりの冊数・金額の制限ももうけないことにしました。これまで指摘されてきた予算の過不足や制約をなくそうとしたものです。教官から随時推薦を受け付け、一定期間ごとに取りまとめて収書専門委員会に諮り、収書専門委員会が分野のバランス等を勘案して購入図書を決定することにしました。そして、このようにして購入した図書については随時、図書館のホームページで報告いたします。

また、収書専門委員会は、以上のような方法で収集された図書を補完する形で、新刊資料や各学問分野等で基本的に備えておくべき図書を選定して購入します。収書専門委員会が、これまで以上に大きな役割を果たすことになり、その責任は非常に重いものになります。

3. 今後の課題

新しい学生用図書の収書方法は、以上のようなものですが、実際に開始されたのは9月からで、広報も充分でなかったこともあり、いまのところ先生方からの推薦も学生からの希望図書の申し込みも思ったほどありません。

長崎大学の学生用図書購入費は同規模の大学の半分にも満たないというデータもあります。今回の変更は、このような状況のなかで、与えられた予算を単に消化するのではなく、学生が必要とする図書をより積極的に、より効果的に収集するために行ったものです。推薦の具体的な方法や図書館からのさまざまな情報の提供の仕方など、改善すべき点は多く残されていますが、これらの点は早急に改めていきたいと思っています。制度的な枠組みはとりあえずできましたが、これがうまく機能するかどうかは、先生方の御協力と学生諸君の積極的な利用とにかかっています。長崎大学附属図書館を真に魅力的な図書館とするため、皆様方の御協力と御支援をお願いいたします。

附属図書館ホームページ内「学生用図書について」

<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/nagasaki-u/gakusei/>

貴重資料展示会「医学は長崎から」開催

平成16年11月11日（木）から23日（火）の13日間、医学分館を主会場として、『医学は長崎からー長崎大学附属図書館医学分館貴重資料展示会ー』を開催しました。

日本における西洋医学教育の歴史は、オランダ海軍軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトが安政4年(1857)、医学伝習所医官として着任し、文久元年(1861)、日本で最初の医学部に附設された124ベッドを持つ西洋式病院『養生所』を開設したことに始まります。これらが本学医学部の源にあたります。それから幾多の変遷を経て、長崎医科大学時代までの資料の一部が、太平洋戦争の原爆の被災から逃れて、現在の長崎大学附属図書館医学分館に所蔵されています。

その中の主な貴重資料には、西洋医学を教えたポンペが解剖実習の際用いた被爆資料でもある『紙製解剖模型（キュンストレーキ）』や、今から300年前の外科手技を記した楳林鎮山著『紅夷外科宗伝』、日本最古の『聴胸器（聴診器）』、アジサイで有名なシーボルトの『日本植物誌』等があり、歴史的にみてかけがえのない財産です。

これらの史料を中心として、南蛮医学・紅毛医学の展示を第1会場医学分館展示室に、医学伝習に関する展示を第2会場ポンペ会館資料室に、合計約100点の展示品を一般公開しました。期間中、約500名の来場者があり、「歴史を感じさせる貴重な資料を楽しんだ」「長崎が歴史の中でとても重要なところだということを再認識することができ、有意義な時間を過ごすことができた」「子供達に長崎の役割、長崎での医学教育を知らしめるためにたいへん良い展示でした」とのコメントを多く寄せて頂きました。

また、共同開催として、隣接する熱帯医学研究所では、熱帯病の病原体・各種標本等を展示した資料室を第3会場に、さらに、原爆後障害医療研究施設2号館の、原爆被災の実態を明らかにするための資料展示室を第4会場として、ここ長崎を舞台とした、壮大な近代医学の歴史ドラマを提供した展示会となりました。



▲開会の挨拶をする相川医学分館長



▲熱心に展示物を見る来場者

(医学情報担当)

近代医学史デジタルアーカイブズ「医学は長崎から」公開

医学分館では、貴重資料展示会開催にあわせて、貴重資料をデジタル化し、インターネットを介して公開しました。貴重資料46点・画像コマ数にして589点を数えます。

『紅夷外科宗伝』、『薬油集解』、『医範提綱内象銅版図』、『紅毛雑話』は、全文をデジタル処理し、『紙製解剖模型』については、360度回転して見えるようにしています（下図右）。これらの資料はいずれも、FLASH形式により作成し、任意に拡大することができます。

長崎開港の扉を開いたアルメイダからはじまり、鎖国時代の唯一の窓口であった長崎における出島商館医達の著作物が続き、ポンペが日本で最初の西洋式医学教育を始めた本学の源にあたる医学伝習所・養生所にまつわる貴重資料など、14のコンテンツにまとめて近代医学史を学ぶサイトを目指しました。普段、貴重書室に保管し人目に触れずにいる資料のデジタル画像を、気軽にご覧いただきたいと思います。

アドレスは <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/ml/exhibit/>



▲ トップページ



▲ 『紙製解剖模型』 360度回転します。

(医学情報担当)

公開講座 「長崎唐人屋敷の変遷」開催

附属図書館では、10月23日～11月13日までの毎週土曜日の4日間、計8回にわたり公開講座「長崎唐人屋敷の変遷」を長崎大学環境科学部講義室を主会場として、岡林館長をはじめとする7名の講師により開催しました。

唐人屋敷は、現在の長崎市館内町にあり、鎖国時代に長崎出島と共に海外に開かれていた窓口で、中国からの知識は長崎の「唐人屋敷」を通して全国に拡がり、多くの実用的な物資が中国と貿易されました。唐人屋敷から伝わった文化は現在も私たちの生活に密着しています。このような観点から企画した今回の公開講座は、1689年（元禄2年）に完成した「唐人屋敷」に関して、社会・風俗・文化及びその建設から解体まで、多面的にとらえる長崎でも初めての試みでした。

講師及び講義内容は、長崎市立博物館・原田博二館長「石崎融思筆唐館図絵巻にみる唐人屋敷」、県立長崎シーボルト大学・岩崎義則助教授「近世中後期の銅貿易と唐人屋敷」、長崎大学・若木太一教授「唐通事の言語生活―唐通事会所日録から―」、長崎市教育委員会・宮下雅史学芸員「発掘調査から見た唐人屋敷」、長崎県立長崎図書館・本馬貞夫副館長「天保期の唐人屋敷―天保六年唐館騒動の背景―」、ホテルJALシティ長崎・陳東華社長「長崎唐人屋敷の変遷」、長崎大学・岡林敏隆附属図書館長「唐人屋敷の範囲確定調査とその今後の活用」、「現地見学会」でした。

最終日は、現地見学会の関係上、現地に近い長崎県農協会館に場所を移して行われ、講義終了後、岡林館長の閉講式挨拶に続き修了証書が受講者一人ずつに手渡されました。

その後の現地見学会（長崎市館内町）は、晴天にも恵まれ皆さんが楽しそうに歩いて見学し、岡林館長の説明に耳を傾けていました。特に唐人屋敷の文化財（土神堂、天后堂、観音堂、福建会館）は中国との交流の歴史がはっきり残り、館内市場は庶民的な雰囲気を漂わせていました。

受講者は、38名で20代から80代までの幅

広い年齢層の方が参加され、講師の話に熱心に聞き入り、質疑応答も行われ関心の高さが窺えました。アンケートに記入していただいた受講者からは「住んでいた唐人の状況や生活、唐人屋敷が果たした役割等、大きく歴史の流れを感じた」「知識が深まり大変有意義な講座でした」「これを企画・主催していただいた先生方・スタッフに感謝いたします」「次回の講義を楽しみにしています」等々の感想が寄せられ、好評のうちに終了しました。

この公開講座には、長崎市職員として4名が参加し、特に現地見学会では、長崎市まちづくり部唐人屋敷推進室からもご協力いただき、人的コミュニケーションをはかることができ、更に地域との連携にも大いに貢献することができました。また、本学と学术交流協定を締結しているライデン大学文学部日本語・日本文化学科の交換留学生2名が一部講義に聴講生として参加し、交流がありました。終わりに、講師の方々、また、公開講座に関わった館員の方々にお礼を申し上げます。



受講風景



現地見学会風景

(情報管理班長)

企業支援図書コーナーの新設について

附属図書館では、多くの企業や市民に支援される図書館づくりを目指し、平成15年度から「**企業支援による集書プロジェクト**」を進めています。これは、平成15年度長崎大学教育研究改革・改善プロジェクトとして認められた「附属図書館機能を活用した長崎大学情報メディア戦略の実現と法人化時代の附属図書館公開に関するプロジェクト」のひとつとして始めたものです。

このプロジェクトの趣旨にご賛同いただきました企業・個人からの助成金として、平成15年度中に7件（**株式会社PAL構造**、**株式会社ウイング**、**株式会社メモリード**、**高橋税理士事務所**、**扇精光株式会社**、**末光進**、**九州電力株式会社長崎支店**）、平成16年度にはこれまでに1件（**肇英實業有限公司** **川副哲**）を受け入れました。※敬称略

ご支援いただきました貴重な資金を活用するために、館内にワーキング・グループを立ち上げて、取書テーマ「長崎学」以下3テーマを策定しました。平成15年度に合計134冊の図書を選書・購入しました。また、その成果を提供する場として、「**企業支援図書コーナー**」を、中央図書館2階の「**全学教育支援図書コーナー**」内に新設しました。

具体的には、取書テーマ「**長崎学**」として、「教会建築論叢」、「医療福祉の祖長与専齋」ほかを、「**環境**」として、「21世紀環境経営とコミュニケーション」、「環境市民とまちづくり」ほかを、「**平和・国際問題**」としては、「国際関係研究へのアプローチ」、「ASEANレジーム」ほかを購入のうえ配架しました。早速、熱心に利用する学生の姿が多く見られ、新たな学習スポットとして大変好評です。



企業支援図書コーナーの資料を利用して学習する学生



支援団体名プレート

(参考調査担当)

2005年の電子ジャーナルについて

2004年に契約していた電子ジャーナルは、2005年も引き続き契約する予定です。

2005年長崎大学契約電子ジャーナル一覧（一部予定も含まます）

| サービスサイト、出版社等 | タイトル数 |
|--|-------|
| American Society for Microbiology | 11 |
| Annual Reviews | 31 |
| Cell Press (Cell, Molecular Cell, Immunity, Neuron) | 4 |
| EBSCOhost (Academic Search Elite) | 2,000 |
| EBSCOhost (Business Source Elite) | 1,100 |
| Elsevier ScienceDirect | 1,800 |
| IEEE CSLSP-e | 22 |
| Kluwer Online | 650 |
| LWW (Lippincott Williams & Wilkins) Fixed100 | 100 |
| Nature, レビュー誌, リサーチ誌, EMBO Journal | 18 |
| ProQuest (Health & Medical Complete) | 500 |
| Rockefeller University Press | 3 |
| Science | 1 |
| SpringerLink | 500 |
| Wiley InterScience | 430 |
| その他(有料のもの) | 34 |
| 計 | 7,204 |
| バックファイルが利用できるもの | |
| Elsevier Science Direct | |
| * Immunology and Microbiology コレクション | 56 |
| * Business Management and Accounting コレクション | 59 |
| Nature Archive (1987-1996) | 1 |
| APS(American Physiological Society) Journal Legacy Content | 13 |
| Annual Reviews | 29 |
| 計 | 158 |

この他にも、冊子に付随している電子ジャーナルや、無料で公開されているもの等、長崎大学から利用できる8000タイトル以上を集めたリンク集を、附属図書館のホームページ電子ジャーナルリンク集(<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/ej/index.html>)で公開していますのでご利用ください。
(雑誌情報担当)

本学関係教員著作寄贈図書（平成16年7月～11月分）

高橋 眞司 教育学部教授

- ・原爆死から平和責任へ / 高橋眞司著 — 北樹出版, 2004. 8 — (長崎にあって哲学する:続)
〔中央図書館 369. 37||2004 1505956〕
- ・長崎原爆資料館:資料館見学・被爆地めぐり
「平和学習」の手引書 / 有田嘉伸, 高橋眞司
監修 — 長崎平和推進協会, 2000. 8
〔日本語版〕
〔中央図書館 319. 8||2001 1827040〕
- ・同 [英語版]
〔中央図書館 319. 8||2000 1827041〕
- ・同 [中国語版]
〔中央図書館 319. 8||2000 1827042〕
- ・同 [ハングル版]
〔中央図書館 319. 8||2000 1827043〕

福井 昭史 教育学部教授

- ・音楽科授業の指導と評価:評価が変わると授業も変わる / 福井昭史著 — 音楽之友社, 2004. 8 — (音楽指導ハンドブック:25)
〔中央図書館 375. 76||2004||25 1505207〕

高木 かおる 経済学部助教授

- ・マクロ経済分析 / 島田章, 高木かおる, 深浦厚之共著 — 九州大学出版会, 2004. 5
〔経済学部分館 331||S 3156618, 3156619〕

田代 隆良 医学部教授

- ・看護アセスメントに役立つ検査の読み方:各疾患の基礎知識、鑑別診断・病態評価のための検査内容と看護のポイント / 上平憲, 田代隆良監修 — 医学芸術社, 2003. 8 — (できるナース・ブック)
〔保健学科図書室 492. 913||2003 2131169〕

入江 準二 医歯薬学総合研究科講師

- ・診療・研究に活かす病理診断学:消化管・肝胆膵編 / 福嶋敬宜編集, 福嶋敬宜 [ほか]執筆 — 医学書院, 2004. 10
〔医学分館 493. 4||2004 2131152〕

園田 尚弘, 若木 太一 環境科学部教授

- ・辞書遊歩:長崎で辞書を読む / 園田尚弘, 若木太一編 — 九州大学出版会, 2004. 3
〔中央図書館 801. 3||2004 1505142〕
〔経済学部分館 801. 3||S 3156374〕

松岡 数充 生産科学研究科教授

- ・大村湾:超閉鎖性海域「琴の海」の自然と環境 / 松岡数充著 — 長崎新聞社, 2004. 10 — (長崎新聞新書:013)
〔中央図書館 519. 8||2004 1827044, 1827045〕

竹垣 毅 生産科学研究科助手

- ・魚類の社会行動 1 / 桑村哲生, 狩野賢司共編 — 海游舎, 2001
〔中央図書館 487. 5||2001||1 1505489〕

環境科学部

- ・環境と人間 / 長崎大学環境科学部編 — 九州大学出版会, 2004. 6
〔中央図書館 519||2004 1505143, 1505144〕



この他にも研究報告書等、多数、いただいております。ご寄贈くださった先生方には厚くお礼申し上げます。

図書、報告書等を出版された際には、ぜひ図書館へご寄贈ください。「長崎大学関係出版物コーナー」に展示するとともに、教育・研究に活用させていただきます。

(図書情報担当)

● 情報スクランブル ●

中央図書館からのお知らせ

中央図書館では、「長崎大学関係出版物コーナー」を増設しました。

学術論文や研究成果、学内概要・報告書、シラバス類などの長崎大学関係出版物を印刷・発行された際には、お忘れなく図書館へご寄贈ください。

図書館では、今後とも学内資料の収集、利用の促進につとめていきますので、よろしくお願いたします。



医学部卒業生から寄贈された、学生が教養を育むための図書：グビロが丘文庫が、1,000冊を突破しました。

先輩がたのオススメの図書です。どうぞご利用ください。

医学分館からのお知らせ

《卒業予定のみなさまへ》

借用中の図書は卒業時までには必ず返却してください。

万一、紛失や盗難などで見つからない場合には、カウンターまでご連絡ください。

経済学部分館からのお知らせ

長崎大学附属図書館報 No.93 2004年（平成16年）12月24日発行

編集委員会 委員長 森高 桂子

委員 金丸 明彦・濱口 千賀子・辻村 恵二・志波原 智美・森石 みどり・山本 知美

発行 長崎大学附属図書館 〒852-8521 長崎市文教町1-14

電話 (095) 819-2193（総務係） 附属図書館ホームページURL <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/>

図書館報URL <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/kanpo/>